



高齢者への認知症スクリーニング検査実施件数

認知症患者への医療提供において、重要となるのが「早期発見・早期治療」です。

本指標は65歳以上の退院患者の認知症スクリーニング検査(改訂長谷川式簡易知能評価スケール:HDS-R)の実施状況を示しています。20点以下で認知症の可能性が高まるとされています。また、どのような認知機能の障害かを判定するために、どの項目で失点したかの記載も必要となります。認知機能が低下していると考えられる場合においては、原因疾患の精査をするために他の検査を併せて行い、早期発見後の治療へつなげています。

長谷川式検査の点数と認知症の程度の目安

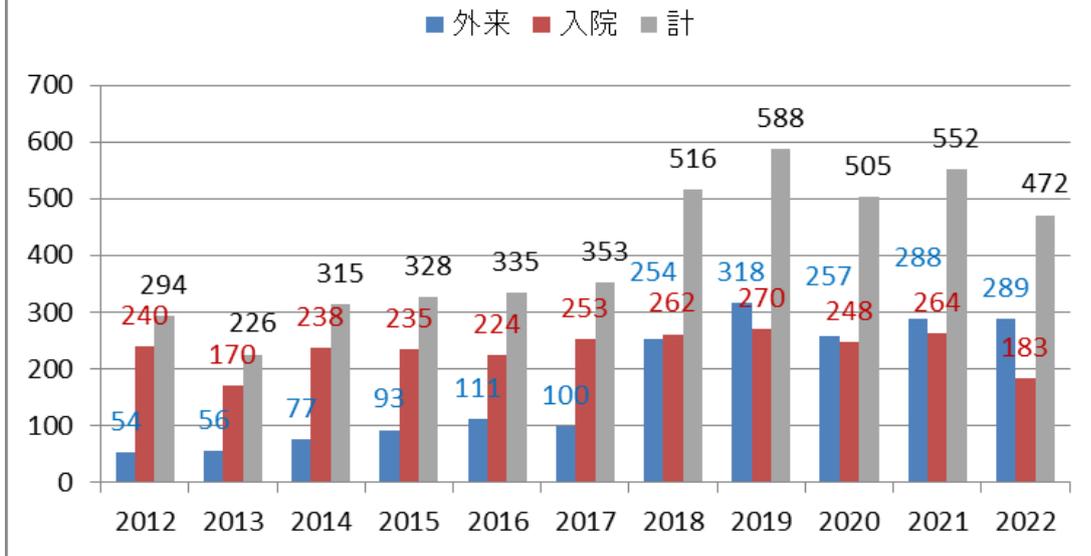
20点以上	軽度認知症
11～19点	中程度認知症
10点以下	高度認知症

<当院の検査実施件数>

2022年は入院件数が264⇒183に減少しました。

外来の検査件数は大きな変化がありませんでした。

認知症スクリーニング検査実施件数(年間総数)



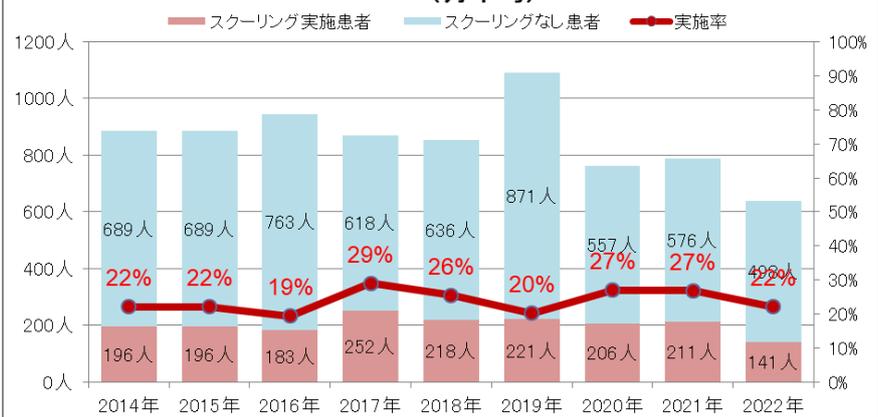
<退院患者における検査実施状況>

2022 年は件数減少に伴って、退院患者比の検査実施率も低下しました。

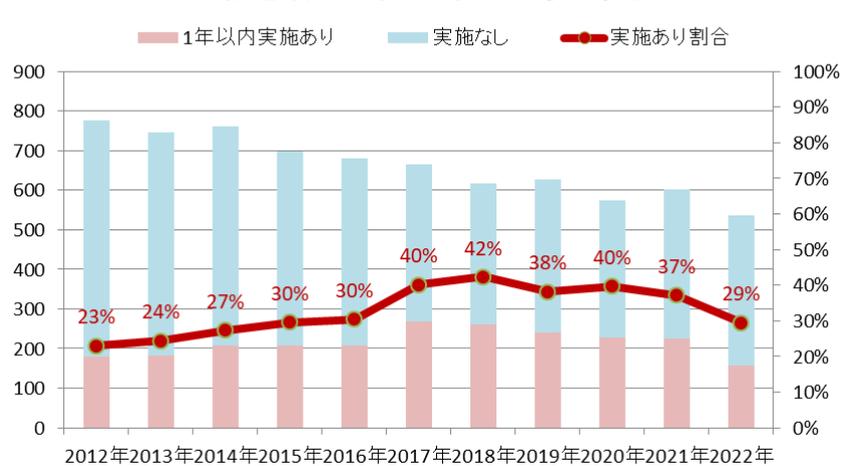
当院では年に数回再入院を繰り返す患者が一定数いる為、単純な退院件数比率では現状を把握できません。また、これらの患者も含めて、認知症スクリーニング検査の実施により、認知症の早期発見・早期治療を行えるようにする必要があります。

1 年間に退院した患者について、複数回入退院を繰り返しても 1 患者を 1 カウントとし、退院患者における退院時 1 年以内の認知症スクリーニング検査実施の有無をみると、2022 年は、37%⇒29%に減少しました。

高齢者(65歳以上の退院患者)への認知機能スクリーニング(月平均)



退院患者の1年以内認知症検査実施

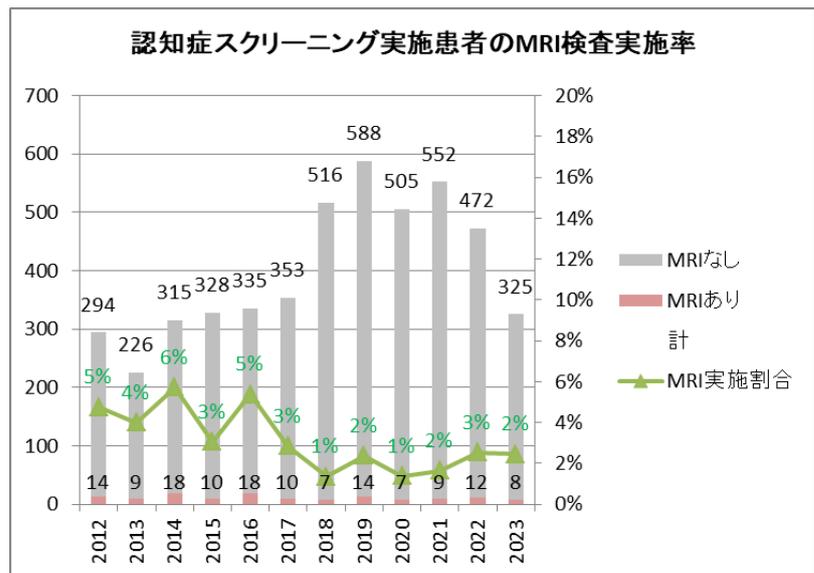


<認知症スクリーニング実施患者のMRI 検査実施>

認知症スクリーニングを行った患者の内、認知症の恐れのある結果が示された患者に対して、MRI 検査等にて、確定診断を行い。治療を開始します。

認知症スクリーニング実施後の MRI 検査実施状況を確認しました。

全ての患者が精査対象ではありませんが、スクリーニング患者の1～3%で MRI 検査を実施していました。



今後も早期発見ができるように、適切なタイミングでの認知症スクリーニング検査の実施を行っていきます。また、早期発見後、早期治療などの適切な介入につなげられているかを課題とし、評価を行っていきたいと思います。